

2020 年度自己点検・評価フォーム
(全学委員会用)

就職・キャリア支援委員会
(就職・キャリア支援部就職・キャリア支援課)

(就職・キャリア支援委員会承認)

【基準7】学生支援

点検・評価項目

- (1) 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。
- (2) 学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

【評価の視点】

- ◎ 学生支援体制の適切な整備
- ◎ 学生の修学、生活、進路、正課外活動（部活動等）を充実させるための支援の実施、その他、学生の要望に対応した学生支援の適切な実施
- ◎ 適切な根拠（資料、情報）に基づく点検・評価、点検・評価結果に基づく改善・向上

【記載の際に考慮すべき点】

- ① 修学支援、生活支援、進路支援その他支援を行うための体制は、方針に沿ってどのように整備されているか。
- ② 修学支援、生活支援、進路支援その他支援の取り組みは、学生支援に関する大学としての方針に沿って実施されているか。
- ③ 修学支援について、以下の対応、取り組みはどのように行われているか。
 - ・学生の能力に応じた補習教育、補充教育
 - ・学生の自主的な学習を促進するための支援
 - ・障がいのある学生に対する修学支援
 - ・留学生に対する修学支援
 - ・学習の継続に困難を抱える学生（成績不振、留年者、退学希望者等）への対応
 - ・学生に対する経済的支援（授業料減免、学内外の奨学金を通じた支援等）
- ④ 生活支援について、以下の対応、取り組みはどのように行われているか。
 - ・学生の心身の健康、保健衛生及び安全への配慮等に関わる指導、学生の相談に応じる体制の整備
 - ・ハラスメント（アカデミック、セクシュアル、モラル等）防止など学生の人権保障に向けた対応
- ⑤ 進路支援について、以下の対応、取り組みはどのように行われているか。
 - ・学生のキャリア支援を行うための体制（キャリアセンターの設置等）の整備
 - ・学生の社会的及び職業的自立に向けた教育（キャリア教育）
 - ・進路選択に関わる支援やガイダンス、その他キャリア形成支援
- ⑥ その他支援について、部活動、ボランティア活動等の正課外における学生の活動への支援など、どのような支援が行われているか。
- ⑦ 学生支援に関する自己点検・評価は、どのように行われているか（基準、体制、方法、プロセス等）。
- ⑧ 自己点検・評価結果に基づき、学生支援の改善・向上に向けた取り組みは、どのように行われているか。

【点検・評価項目】および【評価の視点】を踏まえ、現状説明を具体的に記載してください。

【現状説明】

< 評価： **A：目標が達成されている** >

- (1) 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。

進路支援を行うための体制は、白山、朝霞、川越、板倉、赤羽台の各キャンパスに設置された就職・キャリア担当部署、就職・キャリア支援室を中心に整備を行い、学生の社会的及び職業的自立に向けた4年間のキャリアデザイン（1年生：自分を知る、2年生：なりたい自分を探す、3年生：なりたい自分をつくる、4年生：希望の進路へ向けた実践）に基づき、雇用情勢や新たな採用形態の動きをみながら、就職・キャリア支援委員会にお

ける報告並びに意見交換を経て、各キャンパスにおける学びの特性を踏まえた体系的な就職・キャリア形成支援プログラムを実施している（資料 7-1）。

4年間のキャリアデザインをスタートする1年生全員に対し、社会人として活躍できる汎用的な能力について「知識活用力」「行動実践力」の二側面から測るアセスメントテストを実施し、この結果をフィードバックすることで、学生自らが自身の強み・弱みを客観的に知り、働くことへの意識を高め、今後の「学業」への取り組みや学外活動の目標設定のための支援を行っている（資料 7-2-1,7-2-2）。

2年次においては、1年次の振り返りを踏まえて社会との繋がりから学習内容を捉える視点の涵養、実学的な学びによる職業意識の醸成に向けたインターンシップへの誘導を行う他、3・4年生と共に業界研究、企業研究、業務研究を行い、進路選択の視野を広げることができるような支援や、多様な働き方を理解するための、オープンイノベーション志向のマインドセット形成支援を行っている。あわせて、職業的自立心の向上に意欲がある学生を対象に、アセスメントテストを応用した、自身の価値を最大限に高めるための勉強会を1～3年次対象に複数回実施している（資料 7-3）。

3年次においては、1年次において実施した、「知識活用力」「行動実践力」を測るアセスメントテストを再度受検し、1年次からの成長と変化の度合いを認識し、本格化する就職活動に備えた自己分析ができるように、あらためて、結果に基づく成長の度合いや今後伸ばしていくことが必要となる力を確認できるような支援を行うと共に、民間企業志望者、公務員志望者の双方に選考試験対策を含めた模擬面接、模擬グループディスカッション等の実践的な支援を行っている。また、各業界を代表する企業をお招きし、学生の業界理解、企業理解、業務理解の一助となる場を創出し、志望動機を明確にするための支援を行っている（資料 7-4）。

4年次においては、企業、自治体の選考活動へスムーズに進むことができるように、企業、自治体とのマッチングの場を創出し、学生の希望進路へ向けた学内での説明会等で最新情報を確認できるような機会を提供すると共に、選考が進んでいる学生に対しては個々の状況にあわせた専門の相談員による個別相談とフォローアップを行っている。

大学院生については、原則として3・4年生の支援と違わぬ内容で支援を行っているが、大学院独自のプログラム（「大学院前期1年対象就職活動ガイダンス」「大学院生 就活支援セミナー」等）を春学期と秋学期に実施している。こうしたプログラムを通じて、大学院生の就職活動における注意点を伝え、研究との両立を支援している（資料 7-5）。

グローバル人材の養成に向けては、文部科学省の委託事業である「留学生就職促進プログラム」（2017年6月～2022年3月採択）を首都圏私立大学で唯一受託しており、国際部と連携を図りながら留学生就職支援に取り組んでいる（資料 7-6）。

また、学生のみならず、保護者の就職環境理解を深めるための取り組みを行い、年3回、保護者向けに「自立への道」をWEB配信し、本学学生の就職状況を発信すると共に、大学で主体的に実施している就職懇談会で個別面談、講演会等により就職に関する情報を提供するなど、保護者と大学による学生の自立に向けた二人三脚の就職・キャリア支援を行っている（資料 7-7）。

（2） 学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

学生支援の適切性についての定期的な点検・評価は、年2回～3回開催される就職・キャリア支援委員会において行われている。就職・キャリア支援委員会は、副学長、各学部から選出された教員各1名、教務部長、教務部事務部長、就職・キャリア支援部長で構成され、各種支援の実施方針の策定と総括を通して必要な改善を行い、就職・キャリア支援部ならびに各キャンパスの就職担当部署を通じて次年度の学生支援に反映している（資料 7-8）。

改善・向上に向けた取り組みとして、前述のアセスメントテストにおいて学部1・3年生を対象に学生生活及びキャリアに関するアンケートを併せて実施し、その回答に基づき学生の志向を分析している。この学生の動向を示す分析結果は学長室会議、各学部教授会、就職・キャリア支援委員会にて報告、共有し、各学部でも「知識活用力」「行動実践力」の育成を教育目標とした初年次でのゼミナールや授業での活用が徐々に進んでいる(資料7-9)。また、全キャンパスの就職支援の核として実施している、学部3年生、博士課程前期1年生を対象に、就職活動の基礎を理解し、円滑に就職活動を進めるための支援行事「就職活動支援セミナー」については、5キャンパスの就職担当者との定期的な打ち合わせを通じて、年度ごとに時期や内容について検討・見直しを行っている。さらに、学生のキャリア志向に合わせ、業界・企業研究の対象を選定したセミナーを実施し(資料7-10)、また、全学部合同企業説明会における企業選定にも反映している。

各キャンパスの就職支援についても、全学的な支援に加え、キャンパス・学部ごとの特性を活かして実施している。これら支援については、基本的にはアンケートを実施・検証し、今後に向けたさらなる支援の充実に活かしている。特に就職活動について不安を抱えている旨の回答があった場合には、個別に連絡し、就職・キャリア支援室での個別相談への誘導を行い、学生の多くが不安に思う内容(例えば、内定企業が無いことへの不安等)については、セミナー内で講師から今後の対応策を広く伝えるなど、不安が解消されるように努めている。単に次回イベント実施に向けての改善を重ねるだけでなく、就職・キャリア支援委員会でも、当該時期における就職活動中の学生の動向について定期的に報告がなされ、最新の学生支援の状況を教職員で共有できるよう取り組んでいる(資料7-11-1,7-11-2)。

全キャンパスで基本となる就職活動支援セミナーを実施することで全学共通の支援環境が整い、どのキャンパスでも同様に学生相談を受けることが可能となっている。また、採用時期に合わせた段階的なセミナーを実施することで、学生の円滑な就職活動を促進させ、内定獲得に導いている。就職活動支援セミナー実施後の学生アンケート結果を分析し、学生支援の適切性について検証し、次年度の同セミナー実施に反映している(資料7-12-1,7-12-2)。

このように、各学部の正課教育によって養成された学生の力を土台に、各キャンパスの学生支援に対する取り組みを継続してきた結果が、第一部の就職率98.2%(資料7-13)という数字に表れており、学生個々がそれぞれの希望にあわせた進路を選択できていることは、「卒業時アンケート(2020年3月学部卒業生・回答数668名)」の結果からも判断することができる。内容としては、大学全体での学生の就職活動およびその結果についての満足度が、満足・やや満足で81.6%、さらには、進路決定までの大学としてのサポートで有益だった項目(3つまでの複数回答可)でのトップ3が、1位:「3・4年次の就職ガイダンス、各種セミナー・対策講座」50%、2位:「職員や就職カウンセラーとの相談」28.8%、3位:「学内会社説明会」23.9%となっており、学生のニーズを踏まえた適切な支援が行われていることがわかる(資料7-14)。

また、大学における就職支援の高度化を図るうえで、首都圏を中心とする私立大学の就職支援業務に携わる担当で構成されている大学職業指導研究会に本学職員を派遣し(2019年度は、役員会へ1名、分科会へ3名、新任者研修会へ2名)、各種研修並びに各企業との情報交換における成果を、職員のみならず、就職・キャリア支援委員会で共有している。各大学の就職支援状況を参考に、本学就職支援の改善・向上に向けた取り組みの参考にすると共に、就職支援の適切性を担保し、学生支援に反映している(資料7-15)。

【点検・評価項目】および【評価の視点】を通して、長所、問題点、将来に向けた発展方策を記載してください。

【取り組みの特長・長所】

就職・キャリア支援委員会における協議の結果、以下の取り組みを行っている。

■全学共通

●留学生支援（外国人）

外国人留学生の就職支援については、国際部と連携した留学生就職促進プログラム（5カ年計画）において、卒業生のうち6割を日本国内で就職させることを目指していることから、ビジネス日本語教育の充実、インターンシップの促進を図っている。また、地域の枠を超えた留学生就職を目指しており、地方大学（島根大学、金沢星稜大学）とも連携をしながら就職支援に取り組んでいることが特徴である。入学後の早期からビジネス日本語習得の重要性を伝え、留学生就職促進プログラムのビジネス日本語講座等の受講を促している。更に、イングリッシュトラックの学生の増加を踏まえ、英語でのガイダンスの実施やキャリアカウンセリングの実施（赤羽台キャンパスには専門の相談員を配置）や外国人留学生の採用に特化した合同企業説明会を開催することにより、単に日本人向けの就職支援に参加を促すだけでなく、外国人留学生が躓きやすい個々の事情に特化した支援を行うことで、日本人向けの就職支援にもスムーズに参加できるよう取り組んでいる。こうした取り組みの成果として、全国平均が3割程度である外国人留学生の日本国内での就職者率を、前述当該プログラム（5カ年計画）の3年目にして5割超（学部）にすることができた（資料7-16）。

●留学生支援（日本人）

最近の就職活動は早期化の傾向が顕著となっており、3年生の段階で海外留学をする場合、就職活動スケジュールと重複する懸念がある。こうした状況に対応するため本学の日本人留学生の就職・キャリア支援については、国際部や各学部・学科と連携しながら、学生の留学形態や期間等の留学状況に対応した支援を行っている。海外留学前、留学後に実施する海外留学者向けのキャリアガイダンスに加え、海外留学中の学生に対しても、学内で実施している就活支援セミナーの映像配信、WEB会議システムでの個別相談対応を随時実施し、就職活動に遅れることなく、また、帰国後にスムーズな就職活動ができるよう取り組んでいる点が特徴的である。特に個別相談については、世界各国の留学先から受け付けており、国内での就活生と同様に企業選定、書類作成、面接指導等、実践的なアドバイスを行っており、就職活動への不安を抱くことなく留学に臨めるような支援を行っている。（資料7-17,7-18）。

●UIJターン支援

18自治体と就職協定を締結し、当該協定自治体との連携を強みにした支援を行っている。2019年度は、締結自治体に本学相談ブースを開放し、個別相談会を行った。また、地方人材還流促進事業（LO活プロジェクト）事務局による地方就職・地方インターンシップガイダンス、民間企業3社の人事担当者による地方就職ガイダンスを実施した（資料7-19）。あわせて、各自治体から届いた情報を随時WEB配信することで、切れ目のない支援を行っている。

●アスリート支援

日々の練習・試合・学業に奔走し、社会との接点があまりとれなかった運動部強化部・準強化部部員をメインに「効果的な就職活動をサポート」する取り組みを継続中である。具体的には、2019年度は学部3年生に対し、先輩選手（学部4年生内定者）から就職活動のアドバイスを行う「内定者パネルディスカッション」（2019年12月実施）を皮切りに、「運動部限定 業界・業種研究セミナー」（2020年1月実施）や運動部限定求人への斡旋、さらに運動部積極採用企業の開拓（2019年20社開拓）等を学生部や運動部指導者の協力を仰ぎながら取り組んでいる（資料7-20）。今後は就職活動のサポートに留まらず、デュアルキャリア形成に向けた、選手から社会人への意識の変容に取り組む予定である。そのために、就職・キャリア支援課担当職員と共に学内運動部指導者及び外部見識者を招いたプロジェクトを結成し、定期的に本学ならではの「1年生から一気通貫したデュアルキャリア形成プログラム」策定に向けて準備を行っている（資料7-21）。

●ICT を活用した非対面支援

WEB を利用した就職相談や、バーチャル学内企業説明会、動画による支援を全国の大学の中でもいち早く導入し、4 月 2 日付大学プレスセンターニュースで取り上げられるなど、先進的な取り組みを行っている（資料 7-22）。

WEB を利用した就職相談は、これまで大学で直接支援を受けることが苦手だった非利用者層への支援としても機能しており、今後は、これまで当然のように行ってきた対面による集会型の各種支援行事を見直しすると共に、引き続きアフターコロナに向けた新しい支援のあり方を検討している。

■キャンパス独自のもの

●伴走型支援

白山キャンパスでは、アセスメントテスト活用の一環として、低学年参加・グループワークが特徴の伴走型支援行事「UP 講座」を実施している。1 年次から 3 年次までの複数年の受講を前提とした積み上げ型の講座であり、1 クラス約 100~150 名。講座の成果として、高いレベルで「自走」による就職活動ができる学生を育てることが目標である。アセスメントテストの結果は、1 年生の受講者を募集する際に、就職活動における強みの 1 つである「対人基礎力」が高レベルにある学生を抽出するために利用している。

講座内容は自己分析、業界・企業研究等が中心で、知識や思考法の伝授による「スキルセット」と、自分で考えて動くための「マインドセット」により、学生の自己効力感を高めるための自発的な行動を促すオンライン環境を利用したグループワークによる討議を行っている（資料 7-23）。

講座の受講を通して学部を超えた横のつながりを活発化し、受講生以外の一般学生にも効果を波及させること、および、将来的に講座受講者が 4 年生内定者、社会人として後輩学生に指導・協力をするといった、縦のつながりでの円滑な支援システムの構築を目指している。

●障がい学生支援

白山キャンパスでは、2018 年のウエルネスセンター設置以降、学生サポート室と定期的な連携支援を行っていることが特長である。学生個々の障がいに応じた個別対応による支援を強化しており、学生サポート室との共催イベントの実施のほか、インターンシップやセミナーを通じて学生自身が早期に企業とつながる支援を行っている（資料 7-24）。

●PBL 講座、就業力育成プログラム

川越キャンパスでは、業界・企業・職種理解をより深めるための取り組みとして、例年、理工・総合情報学部全学年を対象とした PBL 講座を実施している。2019 年度は、夏季休暇中の 5 日間で、企業訪問と大学での講座とを組み合わせ実施した。企業から提案された課題に対して学生同士で議論を深めて企画立案し、最終日には企業に対してプレゼンテーションを行ったことで、学生はグループメンバーとの議論やプレゼンテーションの手法を身につける一助とすることができた（資料 7-25）。

また、早期の就業意識の醸成を目的として、1・2 年生対象に低学年向け学内インターンシップ・プログラムも実施している。2019 年度は、夏季休暇中の 3 日間で、モノづくり企業 2 社の現場見学と事前事後講座とを組み合わせ実施した。参加した学生にとっては、企業の現場見学に加えて、企業訪問のためのマナーや、企業の仕事内容と学科の専門の学びとの結び付け方を修得することで、将来の就業を見据えた学修計画立案を促進する良い契機となった（資料 7-26）。

板倉キャンパスでは、1・2 年生をメインターゲットとし、学部の学びとの関連性が高い食品業界や化粧品業界等 4 社の協力を得て工場見学バスツアーを実施した。単なる見学だけではなく社員との交流の機会として座談会やパネルディスカッションをプログラムに加えることにより、低学年のうちからの就業力醸成の一助となっている（資料 7-27）。

●福祉業界研究会

朝霞キャンパスでは、生活支援学科3年生を対象とした「福祉業界研究会」を秋に実施しており、2年次から学外実習を経験した学生が福祉業界の企業を研究することで、希望進路へとつなげている(資料7-28-1,7-28-2)。また、当該研究会参加企業からは、人事採用担当者の他、生活支援学科OB・OGも参加している。当該学科教員が当該研究会へと学生を誘導しており、ライフデザイン学部として「医療・福祉」業界への就職者が107名(2020年3月卒業生)と突出していることから、効果的なプログラムと言える(資料7-29)。

●全員面談

板倉キャンパスでは、3年生と大学博士課程前期1年生全員、赤羽台キャンパスでは、2・3年生全員を対象に全員面談を行い、個々の事情にあわせたキャリア形成のアドバイスとサポートを行っている(資料7-30)。

●キャリア心理学講座

赤羽台キャンパスでは、就職活動に前向きになることの出来ない学生が、内的環境や外的環境の変化にあわせて主体的にキャリアデザインできるようになるための専門家による心理学的アプローチを行い(日英同時)、進路選択の可能性を広げる取り組みを行っている(資料7-31)。

【問題点・課題】

就職・キャリア支援委員会における協議の結果、以下の問題点・課題点が認められる。

●外国人留学生対策

スーパーグローバル大学創成支援事業の進捗に伴い、年々外国人留学生が増加している現状である。外国人留学生の日本での就職を促進するためには、日本語能力の向上、日本企業や日本での就職活動の特徴に対する正しい理解が、必要不可欠となっている。

●学部のキャリア教育と就職支援との連携

就職・キャリア支援課が把握している最新の動向を、特に低学年を対象とするキャリア教育に活かす等、正課と正課外が連携することで、学生が多様な人材と交流し知識や技能を受容できる価値観を身につけて多様な働き方を考えられるようになるための、Society5.0を見据えた就業意識の醸成に取り組む必要がある。現在、キャリア科目担当の教員と就職・キャリア支援委員にToyoNet-ACEのコース閲覧権限を付与し、低学年支援行事を学部における正課のキャリア支援体系の中で活用いただいている。

●自己点検・評価体制

就職・キャリア支援委員会における各種支援の報告や統計等、点検・評価のための資料はあるものの、それらに基づく点検・評価の具体的な観点が明確ではないため、継続的な改善の取り組みを可能とするための枠組みが必要である。

●離職率に繋がる企業とのミスマッチを回避する方策の検討

本学卒業生の卒業後における離職率の把握は難しいところではあるが、就職後3年以内における離職率の高さが指摘される今日において、ミスマッチにつながらないような在学中の就職支援の工夫をする。そのためにも、低学年から、多様な働き方を学び、職業観の醸成につながるオープンイノベーションのマインドセットや起業家マインド醸成にむけたWEBセミナーを実施している(資料7-32-1,7-32-2,7-32-3)。

●父母の就職意識と現代の就職環境との乖離対策

特に、これからの就職環境(2021年採用から)を考慮したうえで、父母の就職意識の現代との乖離を埋めるための方策を検討。これまで学報に同封していた「自立への道」をWEB配信することで、これまで以上に支援の即時性が増した(資料7-33)。

また、この状況下、2020年度における対面での父母懇談会に代わる父母に向けた情報提供について、動画を利用した情報提供を行うと共に、保護者が知りたい内容については、Q&Aを充実させて情報発信を行う。

【将来に向けた発展方策】

●「鉄紺企業」地方企業並びに首都圏企業との連携 - 「鉄紺企業」認定制度

内閣府が定めた、まち・ひと・しごと創生総合戦略第2期開始にあわせ、本学がターゲットとする著名企業への就職支援のみならず、「知名度」は高くなくとも「働き方」において優良な首都圏のBtoB企業、地方に位置しながらも本学学生のボリュームゾーンに位置するような優良企業とのネットワークを確立し、そのような企業への認知度を高めて重点的に就職支援を推進することで、本学の就職支援のための基盤強化を図ることができる。そのための取り組みとして、学生が認知しにくい首都圏のBtoB企業および地方の“優良企業”について、働きやすさ、収益性、成長性、安定性、独創性等、本学が独自に定める基準を満たす企業を「鉄紺企業」に認定し、学生を誘導する。BtoB企業の選定にあたっては、イノベーション力、人材活用力、市場開拓力、経営基盤等が高い企業であることなどを、地方企業の選定にあたっては、協定を結んだ各自治体とも連携を密にし、学内外に積極的なUターン支援事業であることをPRする。また、選定した企業については、積極的な連携を模索し、学生に紹介、誘導する（資料7-34）。

●外国人留学生対策

外国人留学生の日本における就職支援の充実を図るため、日本語教育やインターンシップの授業科目を提供している国際教育センターとの連携を強化し、日本語運用能力の向上、就職活動や就労における海外と日本との違いに関する理解の促進を図る。事務レベルでは国際部との連携は進んでおり、今後は就職・キャリア支援委員会委員と国際教育センターとの連携を深め、更なる外国人留学生支援の充実を図っていく。

●Society5.0に向けた就業意識の醸成

昨今の働き方の多様化を踏まえ、Society5.0の社会実装に向けた、オープンイノベーションを志向するマインドセット形成に向けた取り組みを行っていく。

●自己点検・評価体制の整備

現在、就職・キャリア支援委員会において資料に基づく報告および意見交換という形で行っている点検・評価について、より効果的に改善の営み（PDCA）を継続していくための枠組みを構築する。そのために、学生の就職支援に係る全学方針に照らして、点検・評価の観点及び点検・評価項目を明確に設定し、これに準じた点検・評価作業を行い、その結果に基づく改善の取り組みを行う枠組みを確立し、就職・キャリア支援委員会においてこれを実施する。今後は、就職・キャリア支援委員会として、ICTを活用したアフターコロナに向けた就職支援のあり方を事務局に示し、各キャンパス事務局はこの指針に基づいた支援を行うものとした。

【根拠資料】

- ・資料 7-1 【WEB】 <https://www.toyo.ac.jp/academics/career/support/schedule/>
- ・資料 7-2-1 2019年度 PROG 結果報告会資料
- ・資料 7-2-2 2019年度 PROG 結果報告会資料（追加）
- ・資料 7-3 低学年からの伴走型支援行事（UP 講座）について
- ・資料 7-4 業界理解セミナーチラシ
- ・資料 7-5 就職・キャリア主幹大学院博士課程留学生希望者向け支援プログラム
- ・資料 7-6 【WEB】 <https://www.toyo.ac.jp/international-exchange/I-Turn-Employment-Promotion-Program/>
- ・資料 7-7 【WEB】 <https://www.toyo.ac.jp/academics/career/parental/>
- ・資料 7-8 2020年度就職・キャリア支援委員会委員一覧
- ・資料 7-9 2020年度 PROG 結果報告会資料
- ・資料 7-10 2019年度業界理解セミナーポスター
- ・資料 7-11-1 2020年度就職・キャリア支援委員会第1回議事録
- ・資料 7-11-2 【WEB】 <https://garoon-t.garoon.toyo.ac.jp/v2/cgi-bin/toyo/grn.cgi/message/view?cid=277&rid=129227&mid=778424>

- 資料 7-12-1 2018 年度就職活動支援セミナーアンケート集計結果総括
- 資料 7-12-2 2019 年度就職活動支援セミナーアンケート集計結果総括
- 資料 7-13 2020 年 3 月卒業生進路状況（確定）
- 資料 7-14 2019 年度卒業時アンケート
- 資料 7-15 大学職業指導研究会関連資料
- 資料 7-16 留学生就職促進プログラム中間評価資料
- 資料 7-17 外国人留学生就職支援プログラム
- 資料 7-18 就職・キャリア／国際部主幹留学生希望者向け支援プログラム
- 資料 7-19 2020 年度 U・I・J ターン就職支援
- 資料 7-20 2019 年度運動部の就職活動支援基本方針
- 資料 7-21 東洋大学版アスリートのデュアルキャリア支援プログラムについて
- 資料 7-22 【WEB】 <https://www.u-presscenter.jp/article/post-43467.html>
- 資料 7-23 低学年からの伴走型支援行事について
- 資料 7-24 2020 年度障がい学生支援について
- 資料 7-25 PBL 講座チラシ
- 資料 7-26 学内企業インターンシップチラシ
- 資料 7-27 工場見学バスツアーチラシ
- 資料 7-28-1 福祉業界研究会実施概要
- 資料 7-28-2 福祉業界研究会タイムスケジュール
- 資料 7-29 2020 年 3 月卒業生（学部 1 部・2 部の学部別）業種別進路状況
- 資料 7-30 進路希望カードの提出について（提出時の全員面談案内含む）
- 資料 7-31 赤羽台キャンパスの取り組み
- 資料 7-32-1 多様な働き方に向けての支援一覧
- 資料 7-32-2 多様な働き方に向けての支援 1
- 資料 7-32-3 多様な働き方に向けての支援 3
- 資料 7-33 【WEB】 <https://www.toyo.ac.jp/academics/career/parental/>
- 資料 7-34 中期計画シート